

YMCA News




生かされていること



野山の花々が咲き、小鳥たちの恋の囀り、木々の萌え出る力強さ、一歩外に出ると五感が一斉に体を駆け巡り小宇宙を組み立てる。なんと素晴らしいこの岩手、この日本。こんな素晴らしい片田舎で、日本で初めて「IFOAM PGS認定」(※1)を取得したオーガニック零石という任意団体で、食を基軸に「岩手山南麓の活性化」をテーマに活動をしています。

巻頭言というとてもない世界にご招待いただきましたので、私たちは「生かされている」ことへの感謝について、述べてみたいと思います。

45億年前に地球の母体が誕生し、その後幾多の元素の融合により40億年前に有機体が生まれ、酸素を発生させる生命体が生まれ、ここから多くの進化を遂げ、人間という生命体が現在も増殖し続けています。この生命体は、幸か不幸か「考えること」を得意とし、「便利さ」ということを軸に繁栄を重ね、そこから発生する「負の財産」を野積みにしてきました。

皆さんが直接関わっているものに「食」があり、長期間保存できるとか美味しくなるから便利ということで化学物質(保存料)を使い、生命体としての「負の財産」を貯め込んでいます。「食」するには「美味しく」であり、

味は「五味」で構成され、昔から醗酵という微生物の力を借り作り上げています。保存では「乾燥」「発酵」があり、安全性には「熱」があります。

食材(作物)はというと、これまた便利で収穫量も多いということで「農業」「化学肥料」に頼り負の財産を貯め込んでいます。本来どんな土壌でも有機物さえあれば、それを食べる微生物が存在し、その土壌から作物に必要な栄養素を引き出してくれます。つまり食も農業も微生物の力によって成り立っているのです。私たちを含めた生命体は「お互いが生かされている」ことに感謝し、地球上の生命体に不必要なものは無いことを認識したいものです。それぞれに役割があるように。新型コロナウイルスにも、きっと何かの役割が?

オーガニック零石 事務局長 零石町環境保全型農業研究会
 代表 高橋勝明

※1 IFOAM(国際有機農業運動連盟)が推進している、有機認証の仕組みの一つ、「参加型保証システム」を指す。地域に焦点を当てた有機農産物等の品質保証システムであり、オーガニック零石のPGS活動が、日本で初めて公式認可を受けた。

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

新入生 歓迎会

こんにちは!おむすびから、「新入生歓迎会」についてご報告いたします。4月17日と4月18日に、いわて県民情報交流センターアイーナにて、新入生歓迎会を行いました。盛岡YMCAのボランティアリーダーについて知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的として、企画しました。今年大学に入学した学生や、興味を持ってくれた学生に向けて、SNSや各大学で呼びかけたところ、2日間で約50名の新入生が来てくれました。数名ずつでグループになり、お話をしたりゲームをしたりして交流しました。

最初は、ゲームを行いました。各グループで「積み木自己紹介」を行い、グループの人の名前や出身地、好きな物などを知ることができ、徐々に緊張も解けている様子でした。また、前に出てきたリーダーたちの中で、本当に〇〇しているのは誰かをグループで話し合っただてるというゲームを行いました。「本当に辛い物を食べているのは誰か」「本当に重いものをもってダンスをしているのは誰か」などのお題で各グループが話し合い、盛り上がっていました。その後

は、「お話しタイム」を行いました。各グループでくじを引き、出てきたお題に合わせてお話をしたり、出てきたくじに書かれたミッションを行ったりしました。「大学生生活楽しみなことは?」「ちょっと不安なことは?」などのお題で話し、新入生のことや今の思いを知ることができたりしました。

2日間で、多くの新入生と交流し、盛岡YMCAについて知ってもらうことができました。また、新入生とリーダーの仲を深めることもできました。帰りには、「活動に行きたいです!」と声をかけてくれた人もいました。

新しいリーダーたちと活動できることを楽しみにして、これからも新入生に盛岡YMCAの魅力が伝わるよう頑張っていきたいです。

斎藤七穂(おむすびリーダー)



4月「ちきゅうと、あそぼう。」 活動報告

4月25日(日)に、子ども30名、大学生ボランティアリーダー12名、スタッフ2名で盛岡市内を大冒険してきました。午前中は小雨の中でしたが、街中散策プログラムの『怪盗からの挑戦状』をおこないました。怪盗の正体を見つけ出すために、ミッションをクリアして推理しながら、自分たちで考えたルートで、目的地である盛岡城跡公園へ向かいながら盛岡を散策しました。子ども達は雨も気にならない様子で、街の散策を楽しんでいました。そして、最後には子ども達みんなで怪盗の正体を突き止めることができました。お昼は天気にも恵まれ晴れたので、ピクニック気分でご飯を食べていましたが...まさかの霰が降ってきました。急な天気の変化に子ども達もビックリ!!大慌てで各々が様々な方法で雨宿りをしていました。そんなハプニングも子ども達は楽しんでいる様子。午後のフリー

タイムでは、天気にも恵まれたため、盛岡城跡公園の広場でかけっこやお花を集めて花冠を作ったり、小川で生き物を探すなど楽しんでいました。ブランコに乗っている子どもの前では、YMCAのお笑い芸人達が渾身のネタを披露して子ども達を笑わせていました。

なかには、伝説のカップを探している子もいましたが今回は見つけられなかったと悔しい表情。子ども達は時間いっぱい思う存分楽しそうに遊んでいました。最後は目的地である盛岡駅まで歩いて帰りました。駅に帰る途中、最後まで楽しみながら、自分の力で目的地まで歩ききることができました。みんなで無事に探検を終えることができました。

十文字堅斗(おびりリーダー)





新入職員紹介

【中央センター】



【茶畑大地 (リップ)】



【宮澤秋彦 (シュリンプ)】

YMCA本町センターは3月から中央通りへ移転し、4月からはYMCA中央センターへ名称も一新。より広く楽しい施設に変わりました。そんなYMCA中央センターには、新たに2名のスタッフが仲間入りをしてくれました。まず1人目は、茶畑大地さん(リーダー名はリップ)です。リップは、幼児のころから盛岡YMCAのプログラムに参加していた、生粋のYっ子。小学生の頃は、ベストキップのメンバーとして、サッカーに明け暮れ、汗を流して楽しんでいました。そんなリップは、なんと新潟県佐渡島で生活をしていました。ゆったりとのびのびとした島生活を過ごし、縁あって盛岡へ戻ってきた後は、盛岡市内の保育所で保育士として勤務していました。

ぷらいむ・たいむ盛岡中央校では、男の子を中心にデュエルマスターズなどのカードゲームを一緒にやっているかと思いきや、男女関係なく外で走り回ったり、中でも一緒に暴れまわるなど、楽しい時間を過ごしてく

れています。そして、自身のYMCAでの経験をもとに、一人一人の生活や様子を丁寧に見てくれ、個々にあったサポートをしてくれています。そんなリップは子どもたちにとっての良きお兄さんとして、日々過ごしてくれています。私生活では、2人の男の子のパパとして、育児に奔走しているとのこと。たまに話を聞くと、リップの子ども達もなかなかやんちゃ盛りなようです。きっと育児をしてきたお父さんお母さんは目に浮かぶことでしょう。

続いて2人目は、宮澤秋彦さん(リーダー名はシュリンプ)です。昨年度まで、盛岡YMCAのボランティアリーダーとして、サッカー、水泳、野外活動と多くの活動を支えてくれ、多くの子どもたちと楽しい時間を過ごしてきました。きっと会ったこと、見たことのある子ども達や保護者の方々も多いかと思います。ボランティアリーダーとして、子ども達と一緒の時間を過ごす中で、子ども一人一人に寄り添い、時には優しく、時には厳しく、一人ひとりを大切にすることを学んできました。そんなシュリンプは、職員になっても元気いっぱい!子どもたち以上に元気に走り回り、子どもたち以上に大きな声で笑う。そんなシュリンプの周りは、気づいたら子ども達でいっぱい。とても明るい雰囲気になっています。

ぷらいむ・たいむ盛岡中央校で一番得意な遊びはきっと...毛布ジェットですかね。毛布に乗せた子どもたちを全力で引っ張り移動する、シュリンプにかかれれば、4人くらいまでは行けちゃいます。子どもたちもこの遊びが大好きで、シュリンプがいない時は、近くのリーダーにお願いするほどです。それほど、子ども達の楽しいを大切に、たくさんの笑顔を作り出してくれるシュリンプです。

楽しくなりすぎて、遊びに夢中になることもあるかと思いますが、そこはぜひ温かい目で見守っていただければと思います。

YMCA盛岡中央センター長 浅沼慧

【前潟センター】



【菅原茉理奈 (マリー)】

前潟センターに新入職員、菅原 茉理奈(すがわら まりな)さん【リーダー名:マリー】がやってきました。リーダー名が「マリー」になったのは、すでに察している方もいらっしゃるかもしれませんが、本名の「茉理奈」から名付けられました。ほんわか優しい雰囲気、すぐに子どもたちもマリーに慣れ、一緒にいる時間を楽しんでいます。

出身は宮城県仙台市で、小学校3年生になった時に盛岡市に引っ越してきたそうです。マリーに盛岡市の印象を聞いてみると、「多種多様な作家さんが多く、盛岡市に住んでいる人は優しい」と話してくれました。マリーは芸術が大好きだそうです。見るのも作るのも大好きで、さっそく前潟センターで可愛い壁面装飾を作ってくれました。マリーの作ったセンス抜群の壁面装飾に子どもたちも嬉しそうにしていました。マリーに芸術以外の好きなことや趣味を聞いてみると、とても多趣味でした。音楽を聴くこと、ライブに行くこと、旅行に映画鑑賞と多く、好きになるとどっぷり好きになるそうです。中でも、BTSには特にどっぷりハマっているのだとか...。(人気になったきっかけの「Dynamite」からではない!と力強く言っていました。)ぷらいむ・たいむ前潟校の子どもたちも色んな音楽を聞いたり、映画や図工が好きな子がたくさんいるので、前潟校の子どもたちとマリーと一緒に作った作品をこれからたくさん見てみたいと思っています。

そんなマリーに前潟校の子どもたちについて聞いてみました。「前潟校の子どもたちは元気で優しい」と話してくれました。そんな前潟校の子どもたちとマリーとのこれからの活躍に期待です。以上、優しく落ちついた雰囲気を持つマリーを皆さんよろしくお願ひいたします。

前潟センタースタッフ 大久保 里美

【向中野センター】



【小泉翔平 (ケーキ)】

YMCA向中野センターに、新しい仲間(スタッフ)が加わりました。氏名は、小泉翔平(こいずみ しょうへい)さん。食べ物の中でケーキ好きだということから、「ケーキ」にリーダーネームが決定しました!秋田出身で、実家は自然豊かな所とのこと。湧き水や山菜、サワガニなどが沢山とれる場所があるそうです。以前は、自動車の整備や、看板を作るお仕事をしていたとのこと。向中野センターにおいて、食べ物系の名前を持つリーダーは、今年度初です。児童クラブでも、たくさんの子どもたちから「ケーキ!!」と親しみを込めて呼ばれています。

そんなケーキリーダーですが、YMCA向中野センターの児童クラブでは、90名近くおります子どもたちと一緒に、日々一生懸命子どもたちと向き合っています。まだ向中野センターに来たばかりで戸惑うことも多いですが、優しい雰囲気、一人ひとりの子に声をかけ、丁寧に話を聞きながら寄り添っている姿が印象的です。

また、向中野センターで壊れてしまったものを修理してくれたり、後片付けが終わった後にも、積極的に「あと何かできることはないですか!」と、みんなのために、自分の今できることはないか・協力できることはないかと常に探し、行動してくれているので、とても助けられており、心強い存在だと感じております。

まだまだ向中野センターに来たばかりのケーキリーダーですが、今後ともよろしくお願ひします!

向中野センター長 尾形裕一郎

「しょうがねーなあ!!」

日曜日の夕方、台所から魚の煮付けの甘じょっぱい香りがぷう～んと漂ってくる。小学生の僕は親父と一緒に居間に寝っ転がりながら、今も続く人気番組「笑点」を毎週のように観ていた。このテレビ番組の初代司会者 立川談志師匠は生前、落語についてこんなふうに語っていた。

「『笑わせる』ってのは実はこっちの手段でして、目的はね、『人間の業(ごう)の肯定』ということなんです。わかりやすく言うと人間って眠くなると寝ちゃうでしょ。やんなきゃいけないことを言っても、やらないでしょ。飲んじゃいけないと思いつつも飲んでしまう。それを『八つつあん』や『熊さん』、横丁の『ご隠居』とかに肯定させてやるのが稼業なんです。普通の芸はみんな『業の克服』でしょう?『こうやろう!!』『がんばろう!!』ってなこと言われてね。ところが落語は『しょうがねーなあ』ってところから始まっちゃうんです。

近頃、SNS上でのバッシングが止まらない。芸能人などが一度でもスキャンダルを起こそうものならもう大変。あたかも蜂の巣に手を突っ込んだような大騒ぎになってしまう。匿名を盾にして絶対的正義という鉢で他者を批判する社会って、なんか窮屈だ。もちろん、人権が侵害されるような事案は断固として許されるべきことではないし、ルールやモラルがなければ社会は成立しない。それらは長い歴史の中で育まれてきた人類の財産だと思う。

しかし、少なくとも身近な人間関係においては、車のハンドルに遊びが必要なように、「ゆとり」とか「寛容さ」を大事にしていきたいものだ。それは「何故、その人はそんなことをしてしまったのだろう?」と、相手の立場になって考えてみることだ。「しょうがねーなあ」。ぶっきらぼうな言葉かもしれないが、閉塞した社会の中で自分を開放し、他者を受け入れるための魔法の呪文のようにも思えてくる。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」
(マタイによる福音書5章3節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

ご協力に感謝いたします

●2020年度 維持会員(敬称略)

廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、浅沼誠久、花田瞳、山崎詩織、林間つきみ野教会、照井夏輝、光永尚生、金ヶ澤亮、斉藤優太、魚住恵、accommon、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、人見見弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、石川菜、浅沼慧、浅沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ひろ、滝川佐渡子、一戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治、高橋奈菜、工藤悦子、大関靖二、小山憲彦、伊藤信彦、佐々木隆弘、水田賢次、及川茂夫、菊地弘生、水野暢夫、上中優奈、松尾聡子、増田隆、鶴丹谷三千代、井上修三、井上優子、井上浩太郎、栗谷川香、中原真澄、宮田康男、永山聖子、宮田伸樹、大賀真理、櫻井大樹、大澤秋太郎、和田賢一、織笠友理子、泰江道代、大澤篤人、伊藤真太郎、杉田未来、山口貴伸、小林茂元、嵯峨力雄、角谷善治、菊地創、小林昭、千葉浩三、名古屋謙彦、名古屋実和、佐藤洋一、関根伊作、深澤秀男、深澤多紀子、神田橋慧一、神谷一夫、中島敬泰

●2020年度 寄附金(敬称略)

花田瞳、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見見弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代、及川茂夫、小笠原梨香、菊地弘生、大澤篤人、吉田あさな、武田理恵子

『おしいれのぼうけん』

さく ふるたたるひ たばたせいいち 童心社

《さくらほいくえんには、こわいものが ふたつあります。》
《ひとつは おしいれで、もうひとつは ねずみばあさんです。》

そんな興味をそそる導入で始まる『おしいれのぼうけん』は、1974年に発刊されたロングセラー絵本。かつての子どもも今の子どもも引きつける、2世代3世代に渡って読み継がれている作品です。

舞台となるさくら保育園で、園児達を怖がらせる2つのもの。

それは言う事を聞かないと入れられるおしいれと、先生達の人形劇に登場する“ねずみばあさん”です。

ある日お昼寝の時間に暴れていたさとしとあきは、おしいれの上下の段に分けて入れられます。「ごめんなさい」と言えば出してもらえるのに、なかなか謝らない二人。真っ暗な中で、汗だくの手を握り合って不安に耐えます。けれど暗闇の中でやがて、おしいれのカベがトンネルや人間の顔に見えてきて……その顔がねずみばあさんになった瞬間から、二人の冒険が始まります。

「子どもそのものをかこうとした」という作者の狙い通り、文章と絵の両方で生き生きと描かれた子どもの姿が魅力的。実際に読み聞かせの現場でも、思わず「ボクの、ワタシの世界だ!」と入り込む子どもが続出します。80ページと長めの物語は、息もつかせぬドキドキワクワクの連続で、小学生にも読み応えたっぷりです。

「押し入れに閉じ込める」描写は、現代の感覚からするとヒヤリとさせられるかも。けれどご安心を。最後まで読めば、嬉しい変化に気付くことでしょう。



学校法人盛岡誠桜学園 盛岡誠桜高等学校
保育士専攻科『子ども未来学科』講師 附田清子

表紙の写真から



4月ちきゅうと、あそぼう。野外活動クラブの様子! フリータイム中に「見て見てー!」と素敵な花飾りを見せてくれました。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>